

渡良瀬大橋工事概要

群馬縣土木課長

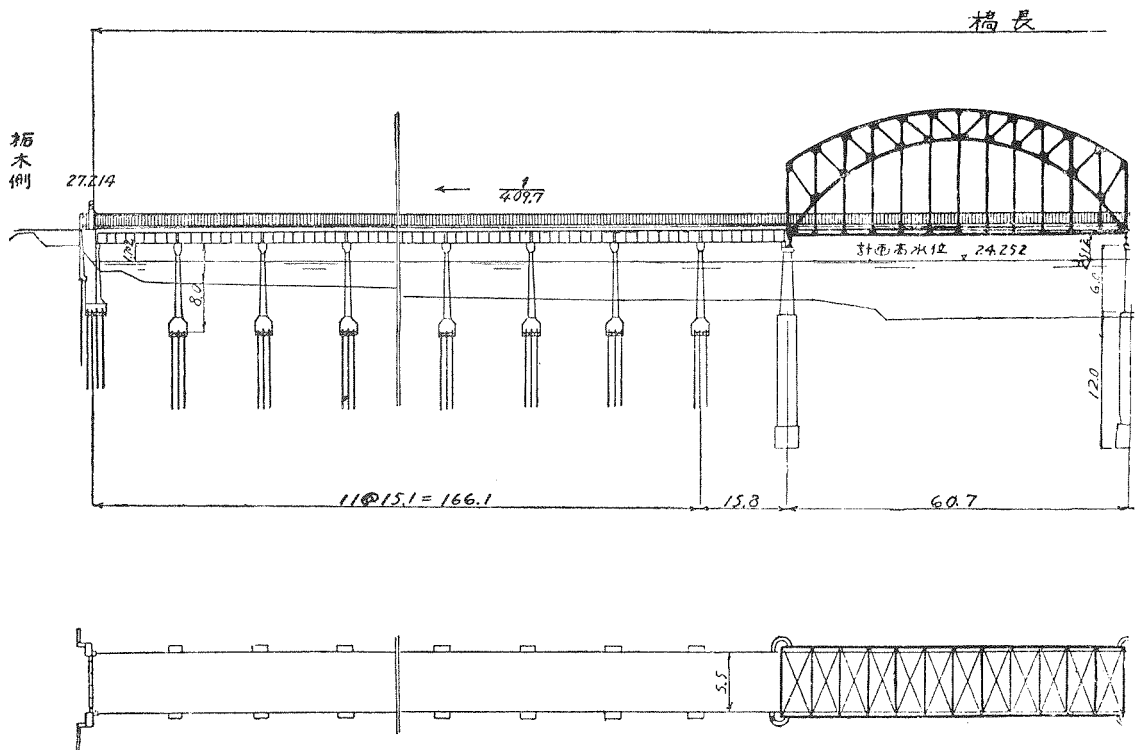
平 川 保 一

沿 革

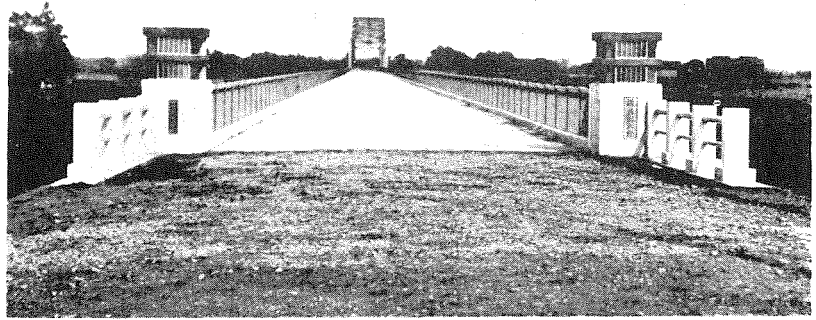
本橋は群馬縣東南の都邑館林町と栃木縣西南の都邑佐野町とを結ぶ重要府縣道館林佐野線に位し、渡良瀬川改修区域内に架せる最長の橋梁なり。

舊橋は渡良瀬川未改修時代のものにして、上流部に於て一朝大雨襲來せんか、當地方に一滴の降雨なきも假橋の警戒をなし取拂又は流失の憂目に遇ひ、爲に出水期に於ける交通を渡船に據れるも、到底現時の交通情勢に適せざること勿論、治水上にも悪影響あり、故

(1) 渡 良 瀬 大



(2) 渡良瀬大橋
正面。



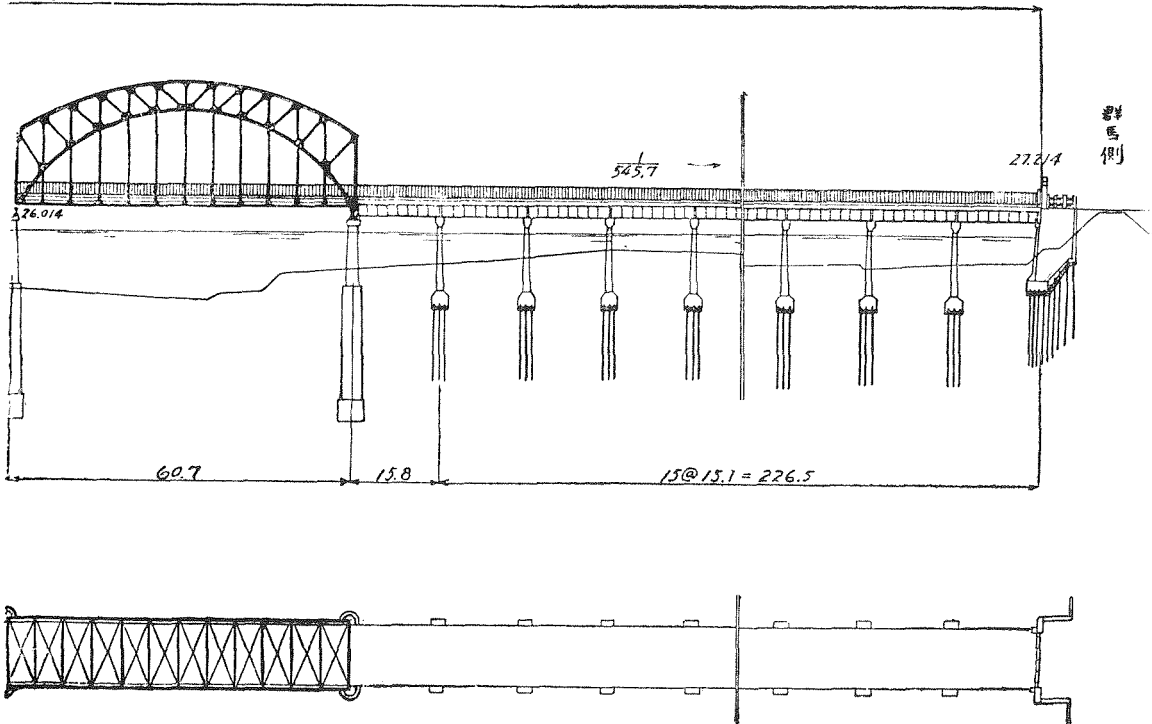
に兩縣に於て昭和六年架橋に關し協議を開始したるも、その機運に至らず、越えて翌七年の通常縣會に於て、昭和八年度より二ヶ年繼續事業として工費金貳拾五萬八千七百參拾四圓（外に群馬單獨取付道路費貳萬參千八百五拾圓）群馬、栃木兩縣折半負擔工事を群馬縣

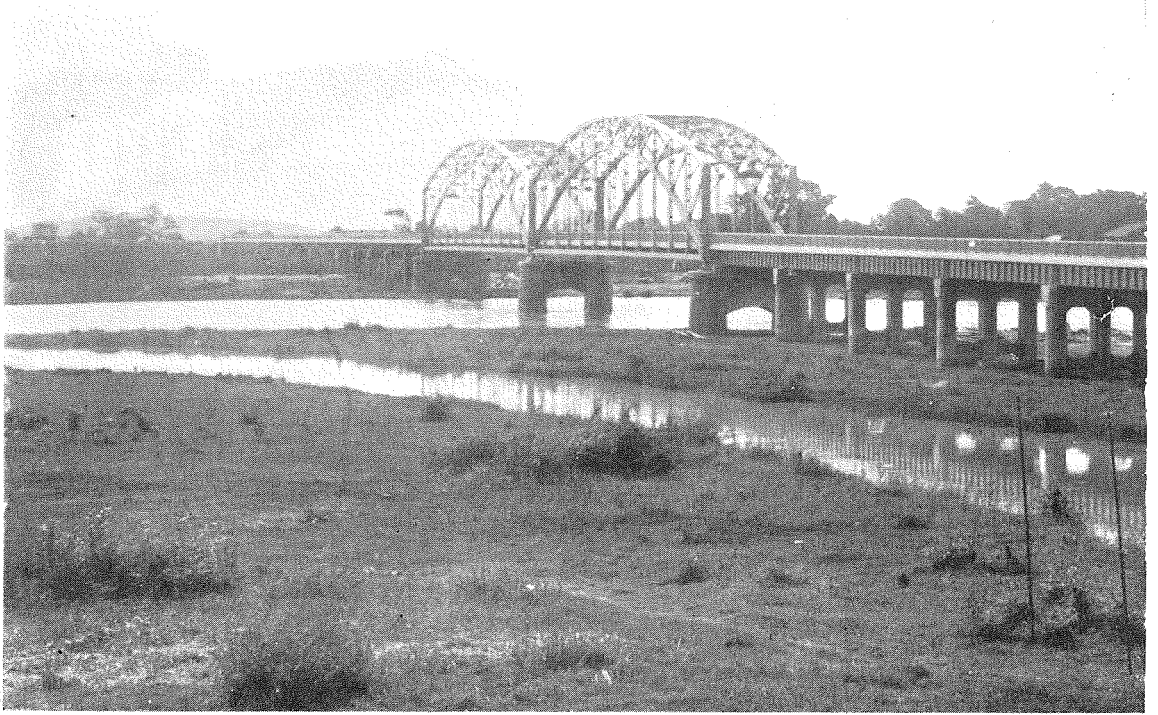
にて擔當旋行することとし、豫算を決議したり。茲に於て架橋地點及設計につき栃木縣の同意及内務省の認可を得、昭和八年下部橋臺橋脚を高崎市徳田鹿藏氏と契約の上、昭和九年一月一日工事に着手したり。

然るに偶々今秋群馬縣を中心に栃木、埼玉、

橋 一 般 圖。

▽45.76





(3) 渡良瀬大橋

三縣に亘り陸軍特別大演習を舉行せられ、本橋の價值一層重要となりたるを以て、その時期迄に竣功すべく鋭意其後の計畫を進め、同年二月上旬鋼材工事を横河橋梁製作所と契約し、尙更に同年四月上旬橋床工事を前記徳田鹿藏氏と契約し、斯くて下部上部を現場及橋梁製作工場に於て一齊に工を進め、鋭意督勵努力の結果工事は良く豫定通り進捗し、九月八日下部工事完成し、一方上部鋼材工事は八月上旬恰も危険なる出水期を侵し架設に従事し、架渡の進むに伴ひ橋床工事を八月下旬より着工し、斯くして各種工事夫々密に連絡を保ちて工事の進捗を計り、遂に下部工着工以來僅か十ヶ月の記録的工事日数を以て十月下旬竣功を見たり。

この間各監督員、請負人、従業員は特別大演習を目標に晝夜兼行的の辛勞は眞に筆舌に

盡し難きものありたり。尙取付道路は別途工事として兩縣各單獨にて施行せり。

設計の大要

本橋架設地點附近は、下流に東武電車橋あり、又才川の合流するあり、是等治水の影響を慮り才川合流點の上流に架設するを最も適當と認め、低水敷に構橋、洪水敷に鉸桁橋を夫々川幅に應じて架設することとせり。

其の概要左の如し。

一、位 置

府縣道館林佐野線

群馬縣邑樂郡渡瀬村大字下早川田、栃木縣足利郡吾妻村大字小羽田、入會渡良瀬川

二、延長及幅員

全 橋 長	545米60
内 鑿 拱	122米40



側面全景。

鈹桁 423米20
 幅員 5米50
 實用面積 3,000平方米
 三、橋體
 型式 繫拱 2連 支間 60米

鈹桁 28連
 支間 14米50 26連
 14米65 2連
 荷重等級 三等橋 群集荷重 500底
 每平方米
 自動車荷重 6底
 振壓機荷重 8底
 橋面 鐵筋コンクリート床版上
 へ無砂コンクリート鋪裝
 縱斷勾配 群馬寄540分の1
 栃木寄410分の1
 横斷勾配 50分の1

高欄 鑄鐵材 橋面上 0.9米
 親柱は高1米73角85輻にして花崗
 石多胡産砂石積とす
 各親柱の頂部には灯室を備へ繫拱
 の入口に「ハイウェイ」を取付照
 明の設備をなす

四、橋臺

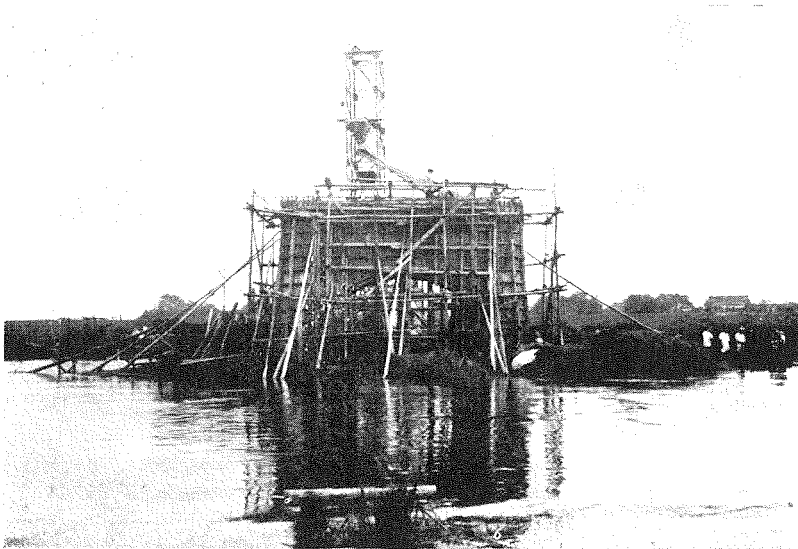
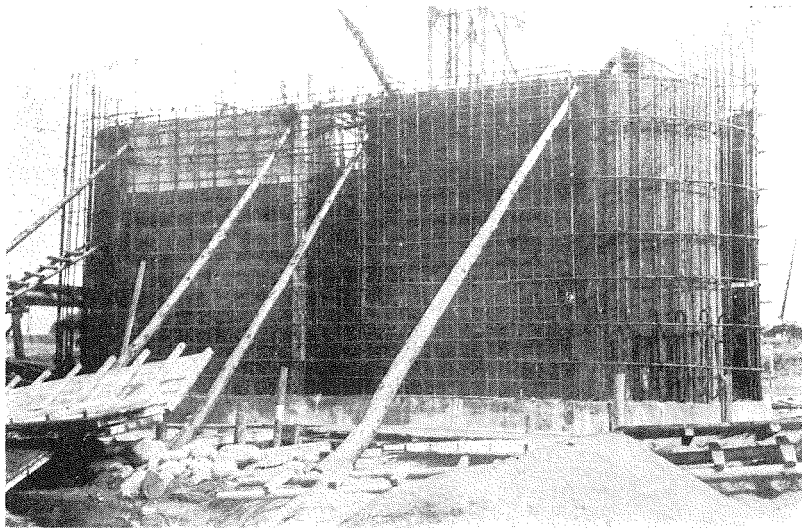
地盤は軟質粘土に付き杭木基礎とす
 左岸 高7米36 幅7米5 右岸 高
 7米36 幅7米5

五、橋脚

29基の内 井筒基礎 3基 杭木基礎 26基
 (4)井筒基礎 3基 長18米
 井筒は上幅3米5、上長9米8、下幅4米1、
 下長10米4。
 井筒部 12米



(4) 渡良瀬大橋
繫拱部。

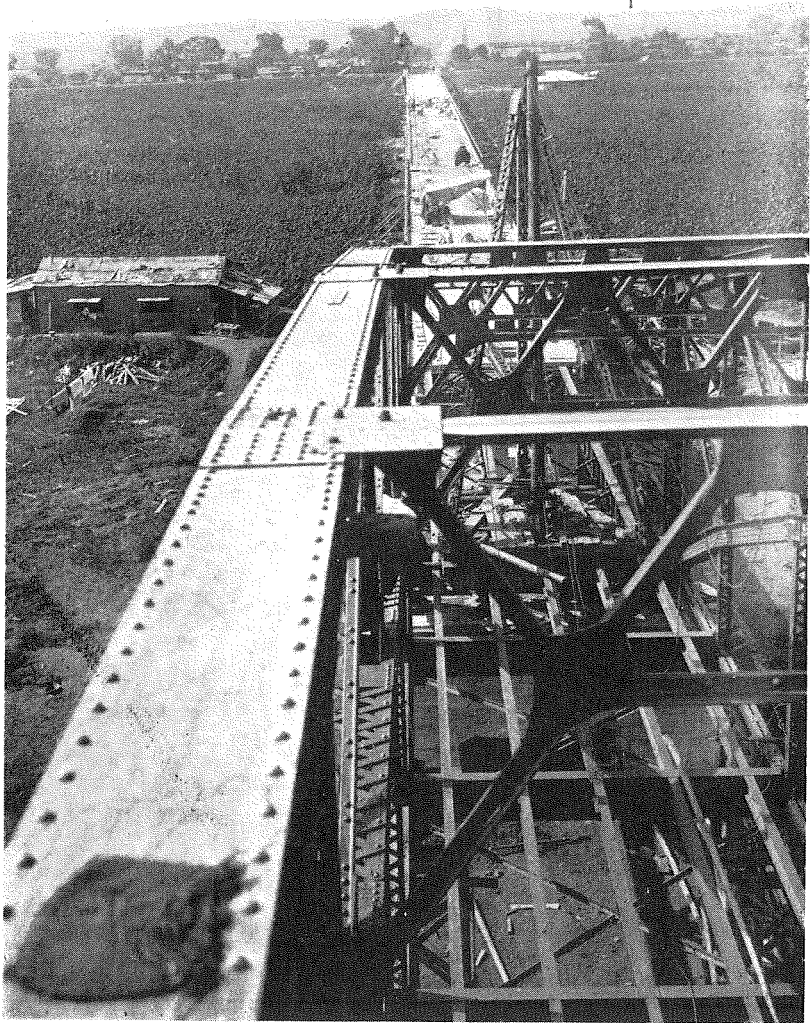


(5) 渡良瀬大橋
井筒の鐵筋組立。

(6) 渡良瀬大橋
橋脚混泥土工事。

軀體部 6米
 (ロ) 杭木基礎橋脚 19基 高 8 米
 自第 1 號至第 14 號 14基
 自第 25 號至第 29 號 5基
 杭木 長 7 米 3 399本
 (ハ) 杭木基礎橋脚 7基 高 8 米
 第 15 號 1 基
 自第 19 號至第 24 號 6基
 杭木 長 7 米 3 147本
 六、取付道路

延長 1014米 幅員 5米 群馬縣
 七、主要材料
 銅 材 658 匁 431
 鑄 鋼 材 8 匁 228
 鑄 鐵 材 78 匁 885
 鐵 筋 材 138 匁 052
 石 材 8 立方米 316
 セメント 5,970 樽 4
 硅 酸 白 土 1642 袋
 砂 利 3,189 立方米 6



(7) 渡良瀬大橋
 繫拱組立中の景。

砂 1614立方メートル
 杭 木 643本
 八、使用職工人夫(現場)
 延 16,406人
 内 職 工 5,055人
 人 夫 11,405人

九、工事期間

昭和九年一月一日 着手
 昭和九年十月三十日 竣工

日 數 308日

十、工事請負人

下部工事及橋床工事

高崎市 徳田 鹿藏

上部鋼材工事

東京市 横河橋梁製作所

終